

市長 癸

# しおかぜ通信

## 謹賀新年

笠岡市長 高木直矢

輝かしい新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

皆様には、希望に満ちた初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、「晴れの国おかやま国体」の笠岡市競技として「成年女子バスケットボール競技」が開催され、大成功のうちにその幕を閉じたところでございます。この大会では、民泊や大会ボランティアとして、多くの市民の皆様からご協力をいただきました。特に、民泊協力会の温かいおもてなしと熱気あふれる応援は、多くの選手の皆様から賞賛の言葉をいただいたところでございます。

今年も、この民泊によって生まれ、育ってきた地域のボランティアエネルギーを今後、生活や地域活動にどのように生かしていくかが、問われる年となります。

地方の財政は、公債費の増加などによる危機に直面し、三位一体の改革による地方交付税の削減、そして地方分権に伴う権限移譲など、さらに激しい波の中を進んでいかなければなりません。私たちは、かつて経験したことのない財政危機を迎えており、先の見えない不透明感は大きな壁となっております。

しかし、新しい何かを求めていく「変革と前進」が必要とされる時期であり、今がその良い機会と考えます。常に前を向いて、失敗を恐れることなく積極的に行政に取り組んでいくことが大切であり、今こそ私たち自身が変わっていかねば、この激動の時代の波を乗り越えていくことはできません。

こうしたことから私は、これまで市政前進のために「みんなで築く生活元気都市」の志を大切にしながら、笠岡市政のスローガンとして「強くてぬくもりの感じられるやさしい笠岡」を掲げ、そして「市民との対話・市民の目線」を基調に、市民の皆様とともに「笑顔で暮らせる笠岡」「夢溢れる笠岡」「揺るぎない笠岡」の三つの笠岡をテーマとして、二十一世紀に向けたまちづくりを推進してまいります。

これは今後変わることもなく、これからも行政と市民がしっかりと手を携えた真の協働のまちづくり実現のために努力してまいります。



▲笠岡駅前にて国体選手を歓迎